

本別町産のエシカル商品の開発 ～豆の魅力を再発見する～

山根楓香 井出依快 山本実結

概要

本別町の魅力の一つである豆の強みを生かし切れていないことに着目し、新たな商品を開発することで、魅力を再発見する

1. はじめに

豆を使い商品づくりをしようと考えて、現在、販売されている食品と異なるもの（特に日用品など）を作ることによって、新たな豆の魅力を知ってもらおうと考え進めてきたプロジェクトです

2. 課題について

本別町の魅力の一つである豆の強みを活かしてきれていないことが課題に挙げられる。

3. 現状分析について

本別町で販売している商品を探したところ食品が多く、食品以外の商品が全くないということが分かった。

4. 仮説について

豆の「食」以外の魅力的な商品を開発することで本別町の「豆の強み」を活かせるのではないかと考えた。

5. 解決策について

解決策として豆の強みを活かすため、本別産の豆を使い食品以外の商品を開発することが有効であると考えた。商品としては、シャンプーバー、化粧崩れ防止ミスト、豆乳石鹸などを考えていたが、配合量なども考慮すると、クレンジングオイルからなるクレンジングジェルを作ることが有効であると考えた。

クレンジングジェルを作り、販売ができた場合、本別町で販売している商品との差別化、新たな魅力の再発見、新たな使い道をアピールできるのではないかと考えた。

6. 成果と課題

[成果]

- ・現段階でクレンジングジェルの試作品を作ることができた。

[課題]

- ・販売経路を確保すること。
- ・どのタイミングでスポンサーに就いてくれそうな人に相談を行っていくか。
- ・卒業までに販売まで進むことができるのか。



【写真：大豆エシカル商品の試作品】

7. まとめ

私達の班は現在、試作品まで完成できた。しかし、最終的には商品化をして、販売までできればと考えているため、まだ継続していく必要がある。

商品完成、販売に向けて、次のように考えている。

- ・資金などを出していただけるスポンサーを探す。
- ・商品名を考える。
- ・パッケージデザインを考える。
- ・販売元を確保する。

最後に、今回の活動に携わっていただいた皆様に感謝いたします。

本別産のエシカル商品の開発 ～豆の魅力を再発見する～

山本実結 井出依快 山根楓香

概要

本別町は豆が特産品であるがその豆の強みが生かし切れていないことに着目し、大豆の新たな商品を開発することで、本別の魅力を再発見してもらおう。

1. はじめに

この活動のきっかけは、本別町と言えば「豆」であるが、調べてみると豆に関する商品が食べ物ばかりであることがわかった。そのことから、豆をもとに何か社会で問題になっていることについて、解決していきたいと考えエシカル商品開発を進めた。

2. 課題について

私たちが考えた本別町の課題は、本別町の魅力の一つである豆の強みを活かしてきれていない事である。

この課題を選んだ理由は、本別町の豆商品として販売している商品は食べ物がほとんどであるという事、豆の魅力があまり伝わっていないという事である。

3. 現状分析について

本別町にある豆商品については、レトルト・カレー「カレーでナイト」やキレイ豆商品など食べ物に関する商品が多くあった。分析結果として、本別町の豆商品は食べ物がほとんどだということが分かった。また、廃棄物からエシカル商品を開発しようと考えていたが、本別町の豆を使ったみそ・醤油などを作っている本別町内にある会社「渋谷醸造」に連絡したところ、大豆から出る廃棄物が醤油を作る際に出るもろみカスだけであった。そのため、豆の廃棄物から何か商品を作りことは難しいと考え、テーマを変え、もともと設定した課題解決のため、「本別町の豆を使い食べ物以外の商品を作ろう」をテーマに活動することとした。

4. 仮説について

「食」以外の魅力的な商品を開発することで、本別町の「豆の強み」を活かせるのではないかと考えた。という考えに至った。

5. 解決策について

豆商品は食べ物ばかりなため、豆の「食」以外の魅力を再発見するため、豆の強みを活かすため、本別産の豆を使い、石鹸やシャンプー、化粧崩れ防止ミストなど色々なものを思案したが、一番豆の成分を入れることができる豆乳クレンジングを開発することが有効であると考えた。

このことにより、豆の新たな使い道をアピールすることができる。この豆乳クレンジングジェルは豆乳100%使用し、天然由来のものを使用している。



【写真1：豆乳クレンジングジェルの試供品】



【写真2：豆乳づくり】

6. 成果と課題

〔成果〕

正解のない課題に挑戦し、次世代の十勝を牽引するために地域の特性を活かした特産品の開発に挑戦することができた。また、地域の人たちや色々な会社の人たちのに自分たちから積極的に電話をしたり連絡を取ったり、話を聞きに行くなどした。そこで、各会社ならではの商品の作り方や、電話の仕方などを学んだ。

〔課題〕

これからの私たちの課題は、スポンサー探し、商品案、パッケージなどのデザインなどを検討する必要がある。

さらに、試作品の改善も随時していきたいと考えている。



【写真3：エシカル商品についてのプレゼン】

7. まとめ

班員と話し合っていく中で、得られる発見や、実際に町の方々や色々な会社の方々に話しを聞いて得られる発見があった。

今回の活動で様々なことを発見し、得ることができ、私自身大きく成長できたと思う。まだまだ私たちの班は、これからもこの活動を続けていく予定である。これからの課題は、どのような人たちに、どうやって売り、商品化していくかが課題となる。

最後に、今回、携わっていただいた皆様、一年間本当にありがとうございました。

本別産のエシカル商品の開発 ～豆の魅力を再発見する～

井出依快 山根楓香 山本実結

概要

本別町の食べ物以外の豆商品を開発し、豆の魅力を再発見することで課題を解決する。

1. はじめに

私たちのグループは本別町の新しい商品開発をするために集った。活動を進めていく中で、本別町の豆商品として販売しているものはほとんどが食べ物であることが課題の一つとしてあげられ、本別町の食べ物以外の豆商品を開発しようと考え、今まで活動してきた。

2. 課題について

本別町の魅力の一つである豆の強みを活かしてきていないことに着目した。

3. 現状分析について

本別町の豆商品を調べてみたところ、カレーでナイトやキレイマメの商品など沢山の食べ物商品があったが、やはり食べ物以外の商品は見つからなかった。また、インターネットで食べ物以外の豆商品を調べてみると、化粧水や石鹸などがあることが分かった。そこで私たちは廃棄物からエシカル商品を開発しようと考えたが、本別町にある味噌や醤油を製造している「渋谷醸造」に電話で確認したところ、廃棄物はないとのことだった。

よって、廃棄物を使ったエシカル商品を開発するのは難しいと判断した。そこで私たちは「本別町の豆を使い食べ物以外の商品をつくる」ことを目標として商品開発を進めた。

4. 仮説について

豆の「食」以外の魅力的な商品を開発することで、本別町の豆の強みを活かせるのではないかと考えた。

5. 解決策について

私たちの中で3つの商品案として、①シャンプー、②化粧崩れ防止ミスト、③石鹸類を考えていたが、解決策として豆の強みを活かすため、本別町の豆を使い、豆の成分を一番入れることのできる豆乳クレンジングジェルを開発することが有効で

あると考えた。

そして私たちは、企画に乗ってくれる企業を探すため、道内外のいろいろな企業で問い合わせをした。

その結果、富良野市内の株式会社イン・フィリートという企業が私たちの取組に関心を持ってもらったため、この企業に開発協力してもらうことにした。

商品を作るにあたり、豆を本別町内の若林農場に10kg提供していただきその豆を使い、「豆ではりきる母さんの会」の方々と豆乳づくりを行い、その豆乳を企業に送付して試作品を作ってもらったこととした。

【写真1：豆乳づくり】



私たちは、豆の「食」以外の魅力を再発見することで、豆の新たな使い道をアピールすることができるのではないかと考えた。

6. 成果と課題

【成果】

株式会社インフィリートと豆乳クレンジングジェルの開発を進め、試作品を作ることができた。

また、この豆乳クレンジングジェルは本別町産の豆で作った豆乳100%を使用し、天然由来成分を使用したものとなっているものを開発することができた。

本別町議会で商品のプレゼンをし、議員の方々に試作した商品を試してもらうことができた。



【写真2：豆乳クレンジングジェル】

〔課題〕

今後は商品化するにあたって、私たちの企画に賛同してくれるスポンサー探しが必要となる。同時に商品のパッケージデザインも考えていきたい。

また、消費者がどのような年代で、どんなものが必要としているのかをリサーチして、それによってデザインなども検討する必要がある。

7. まとめ

1年間この活動を行ってきたが、最初は探究テーマも定まらず、何度もテーマを決めては変え、決めては変えを繰り返していた。テーマを決めても仮説や解決策を考えるのも難しく、全く進まない日もあり、とても大変だった。しかし、私はこの活動をやってきて良かったと思っている。なぜならば、今回沢山の方々に関わっていただき、どうすれば課題を解決できるのか、一緒に考えて多くのアドバイスをいただいた。その過程の中で、課題解決のために必要なことや、現実的に考え、どうすれば可能であるかなど、沢山のことを学ぶことができたからである。自分の将来に役立てられるとても重要かつ大切な活動であった。今後も私たちのグループの活動は継続する。実際に商品化できるよう活動していきたいと考えている。

最後に、今回の活動で関わって下さった藤井さん、先生方をはじめ、コーチの方々、浅井さん、山根さん、池田さん、若林さん、豆ではりきる母さんの会の方々、株式会社イン・フィリット、並びに各企業の皆様、1年間本当にありがとうございました。